

涅槃（ねはん）とは、悟りの世界、現世でない世界。本殿正面の構図は極楽を表しています。となると、この門を潜ることは涅槃を目指すことでしょうか。

この門は、規模、構造、装飾など創建当時のものと余り異なる事なく、青森檜葉・樟（くす）を素材として復元されています。創建当時は、彫刻に「白檀」が用いられたと伝えられています。

開門は、原則 正月 2 日年賀拝礼式と 5 月 24 日御命日法要の際です。御当主は羽織袴、仙臺藩志会の方々は羽織袴・袴・帯刀で通過します。圧巻です。様子は拝礼式の頁をご覧ください。

門の特徴は透かし彫りです。

門表 上部に「麒麟」 門内 上部に「瑞雲」が一枚板の透かし彫りになっています。

黒い部分です。視点を異にすると 見えたり・見えなかったりします。不思議と唱える方 多いです。

門の妻 内側に牡丹 外側に唐獅子 が彫られ、ここも表裏一体 透かし彫りになっています。

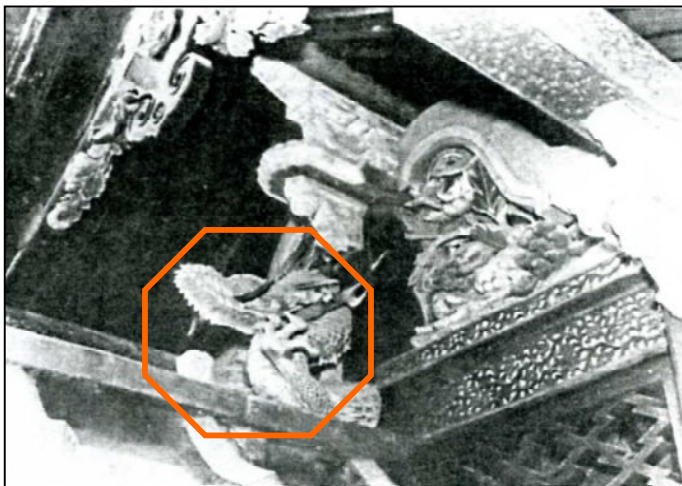
2009 年 10 月から 2010 年 3 月迄、半年約 4 千万円の時間と経費を費やして、創建当時の色彩を目指して化粧直が行われ、面目を一新しました。



正面 伊達家家紋「菊紋」が燦然と輝いています。皇室とは異なります。



涅槃門から、中央に、本殿の「忠宗公直筆」その上 拝殿に「佐々木文山書」の各扁額が望めます。この位置での撮影は極秘に近い穴場です



創建当時の外妻の彫刻。
「仙臺藩志会藩報 28 号」記載。



新装なった現在の姿。木鼻が復元されていません。

透かし彫

経 至
拝 殿
本 殿

左門内
内妻



右門内
内妻



左門内
外妻



右門内
外妻



瑞雲 (七色)

門内



麒麟

門外・正面
鳳雲

彫刻 林

左
外妻



右
外妻



左
内妻
牡丹紅



門外

右
内妻
牡丹紅白



構造等

1. 構造
木造、平屋建、切妻造、四脚門、銅版段葺。
2. 規模
桁行 2.72m
梁間 2.12m
面積 10.85 m²
軒高 2.79
棟高 5.54m
3. 仕上
屋根 銅版段葺。 棟 銅版包。 鬼板 銅版打出。
紋章 金箔押。
軒裏 二た軒とし、捶、茅負、裏甲、破風板、 黒漆塗。
軸部 布石、土台石、柱沓石 黒御影本磨。
柱、双盤、框門、腰貫、方位、棟木、黒漆。
台輪、冠木、頭貫、外桁等軸部、 漆下地金箔押。
斗拱、棟木、海老紅梁等、台輪、肘木等小口・模様 極彩色。
基壇 葛石、犬走、土間、雨落溝縁石、 糠目石小叩仕上。
雨溝底、 防水モルタル縵抑え、玉砂利敷込。
下部、鋳物、水切格子。
建具 両開棧唐戸、黒漆塗、銅板打出金箔押。

嵌殺稲菱建具、青漆塗。
飾物 柱根巻金物、銅鋳物金箔押。垂木口、桁木口、貫木口、破風、八双及散し。
方立及冠木散し、棟鳥龕、裏甲、茅負各散し。
飾金物一式、銅板打出金箔押。
懸魚釘隠、銅製、金箔押。
彫刻 妻（牡丹・唐獅子）彫刻、懸魚彫刻、臺股彫刻、各木製極彩色仕上。
頭貫、台輪、冠木、唐草透彫刻フキ漆仕上。唐草透彫下地に金箔。

制作

- 林 鳳雲 臺股、麒麟・瑞雲
鈴木彫刻店 頭貫、台輪、冠木、唐草透彫刻
小西美術工芸社 黒漆塗、極彩色。

素材

- 青森檜葉 柱
樟（クス） 頭貫、台輪、冠木、外桁の透彫 創建時は白檀

構造等記載の本頁は、瑞鳳殿再建期成会刊行「瑞鳳殿再建の経過」に基づきました。